ちょうどいい！

小さな町の豊かな暮らし

福島県三島町

可能性に満ちた小さな町

DATA
- 面積：90.81㎢（うち森林 79.88 ㎢）
- 海抜：255m

〈2020 年 4 月 1 日現在〉
- 人口：1,571 人（748 世帯）

年々小雪になってきているとはいえ、ここは雪深い地域

小さな町で豊かな暮らしを始めてみませんか？

福島県西部の会津地方、只見川沿いにある山々に囲まれた小さな町。

ここは四季がはっきりと巡り、新緑や紅葉に染まる山々やホタル舞う満点の星空が美しい一方、冬の寒さは厳しく、除雪作業は大変かもしれません。

しかし、春は山菜採り、夏から秋は畑仕事、冬はものづくりと、この町の人々は自分たちの手で営む暮らしを楽しんでいます。

そして、そんな三島町の暮らしや人に惹かれて移住し、様々なことにチャレンジしている多くの人がいます。

豊かな自然に囲まれていながら、街へのアクセスもしやすく、人と人とが顔の見える関係でつながる三島町。

自らの手で暮らしをつくることが、今後ますます必要になってくるであろう時代、この町は多くの可能性にあふれています。

雪国ならではの

ものづくり文化

暮らしに必要な道具を、身近な自然素材を使って自分たちの手で作る「ものづくり＝生活工芸文化」が、三島町には色濃く残っています。かつて、雪に閉ざされる冬季はものづくりの季節でした。縄文時代より脈々と受け継がれているものづくり文化を身近に感じられる暮らしが三島町の魅力です。

＃編み組細工（国指定伝統的工芸品）
ヒロロ、山ブドウ蔓、マタタビ蔓などを使って作られるかごやざる、バッグ製品などのことをいう。

＃工人まつり
編み組細工をはじめ様々な手作り品が全国から集まる三島町最大のイベント。
毎年６月の第２土日に開催。

三島町生活工芸憲章

一. 家族や隣人が車座を組んで
二. 身近な素材を用い
三. 祖父の代から伝わる技術を活かし
四. 生活の用から生まれる
五. いつわりのない本当のものを
六. みんなの生活の中で使えるものを
七. 生きる喜びの表現として
八. 真心をこめてつくり
九. それを生活の中で活用し
十. みずからの手で生活空間を構成する

（昭和５６年制定）

●三島町生活工芸館

雪国ならではのものづくり文化を後世に伝えていくための拠点施設

✽木工室、陶芸室、編み組室があり、町民の方は自由にお使いいただけます。
✽年間を通してヒロロ教室、冬期は冬のものづくり教室（マタタビと山ブドウ細工）が開催されています。

三島町生活工芸館 ☎0241-48-5502

●生活工芸アカデミー制度

三島町に暮らしながら、山村地域の暮らし（農作業や、郷土食、伝統行事など）と編み組をはじめとするものづくりを１年かけて学べるプログラム。
詳細は、生活工芸館へお問い合わせください。

ものづくりへの想いや三島町の魅力などを聞いてみました！

編み組を生業にしたくて三島町へ！

編み組の世界は奥深く飽きることがありません。ようやく基礎の基礎を習得したあたり、一生修行だと思っています。いずれは編み組一本で食べていけることを目指しています。

三井 康二さん（30代）
山梨県出身。編み組を習いに 2018 年に三島町へと移住。町内で週３日ほどアルバイトをしながら編み組をしています。

夏は百姓、冬はものづくりという暮らしは最高！

ボケ防止のためにと始めた編み組細工。お客さんが喜んでくれるのがうれしくてうれしくて、責任持って丁寧に心を込めて作っています。夏は百姓、冬はものづくりという暮らしは最高だ。それができる三島は、自分にとって世界一の場所。

福田 耕士さん（70代）
定年退職後、山ブドウ細工を始め伝統工芸士となる。生活工芸アカデミーやものづくり教室の講師を務める。

五十嵐 光栄さん（80代）
55 歳から本格的にマタタビ細工を習い、伝統工芸士となる。生活工芸アカデミーやものづくり教室で教えている。

ものづくりを通して色んな人に出会え楽しい！

あそびのつもりで作り始めたが、どうせやるなら注文に応じられるようちゃんとやんべと習うことに。先生からは身体で覚えろと教わった。次はこういう風に作ってみようと考えるのも、工人まつりやものづくり教室で全国の色んな人に出会えるのも楽しい。

ものづくり教室に参加して三島が大好きに！

ものづくり教室を通して、三島の人の良さに触れ、三島が大好きになりました。いいものを使いたい、使いたいものは自分で作りたいという思いが、私のものづくりの原点。材料採りから始めて、全ての工程を自分でできるのが編み組の魅力です。

星 ルミ子さん（40代）
千葉県出身。2012 年より、週末に冬のものづくり教室やヒロロ教室に通う。2016 年、地元男性との結婚を機に三島町へ移住。

鈴木 敦さん（40代）
2015 年にご家族で移住。
Effect handmade として、絵の額縁を中心に木工作品を制作販売している。

三島町はものづくり好きが集まるおもしろい町

本格的な機械が使える生活工芸館は、木工をする人間にとって素晴らしい場所。また、ここはものづくりが好きな人や「個性的な人」が集まる町だと思います。みんな三島町が好きで、おもしろい人たちで、一緒にいるのが楽しいです。

●三島町生活工芸館 http://www.okuaizu-amikumi.jp

移住 case 1

西 恭平さん・茉美さんご夫妻(30代)

福島県飯舘村出身の恭平さんは、2015年に移住し林業に携わっている。
宮城県出身の茉美さんは、2017年12月結婚を機に移住。

Q 三島町へ移住された経緯を教えてください。

A 恭平さん

大学を卒業後、長野県にある工務店で働いていましたが、実家のある福島県に戻りたいと思い移住先を考えていました。林業の仕事に就きたいという想いがあり、ここなら山の仕事があるのではないかと会津地域の農林事務所等に問い合わせ、今の職場を紹介してもらいました。また、奥会津には温泉などに遊びにきていたこともあり、以前からこの地域の雰囲気も気に入っていました。

A 茉美さん

私は学生時代からの地域づくり活動を通し、いつか自分も人とのつながりや手しごとが身近にあるような地域で暮らしたいと考えるようになりました。三島町に通ううちに、人のあたたかさや、「てわっさ」（三島町では、手しごとのことをこう言う。）のある暮らしに魅力を感じ、主人との結婚を機に三島町へと移り住みました。

Q 空き家を購入されたのですよね？

A 恭平さん

地域の方に空き家を紹介していただき、購入しました。家の内部を中心に家族で暮らしやすいように改修して住んでいます。床板や棚に地元の桐や杉の材も使っています。

A 茉美さん

庭につくった小さなハーブガーデンも、毎年少しずつ種類が増えて賑やかになってきました。また、最近はおやつの時間になると息子と庭に出て、イチゴやジューンベリーを摘んで楽しんでいます。

Q 野菜も作っているのですよね？

A 恭平さん

移住した当初から畑を借りています。農家で生まれ育ったので、小さい頃から畑は身近で手伝っていましたが、子どもの頃は農業などが嫌いでした。しかし、二十歳の頃には畑がやりたくなり、大学生の時に小さな畑を借りてやるようになりました。身体に染みついているんでしょうね。主に自分たちが食べたい野菜、息子が食べる／食べてほしい野菜を育てています。

A 茉美さん

主人の育てた野菜や果物は近所のお母さんに教えてもらった料理や保存食にしたり、お菓子づくりに使います。ご近所さんにも手伝ってもらい自家製大豆で味噌づくりもしています。手間ひまはかかりますが、手しごとをする時間は大切にしたいです。昨年は小正月行事の「だんごさし」を自宅でもやってみました。自分たちが暮らしている土地の行事や習慣も大事にしていきたいと思っています。

Q 子育て環境についてどのように思われますか？

A 恭平さん

触れてほしいもの、見てほしいものなど、子どもに経験してほしいと思う環境がここにはあります。山々に囲まれた自然豊かな環境はもちろん、近所の人のところに気軽に遊びに行けるなど、多くの人たちとの関わりがあります。小さな町ならではの魅力だと思っています。

だんごさし：小正月の１月の１４日～１５日に行われる五穀豊穣を願う行事。ミズノキという木の枝に花に見立てただんごをさす。

Q 子どもが少ない環境かと思いますが…

A 茉美さん

ご近所のおじちゃんたちに遊んでもらったり、色んな年代のお友だちが集まって走りまわったりする姿を見ると、ここで子育てができてよかったなぁと改めて感じます。子どもは少ないかもしれませんが、地域全体で子どもを見守ってもらえているような環境があるので、子も親もとても支えられ、楽しく過ごせています。こういった三島町での暮らしから、息子なりに色々なことを感じ、学びながら成長していってくれたらいいなと思います。

ご近所さんに挨拶したり、立ち話をしながらお散歩するのが日課。

夕方畑に行くと、自然と皆さんと顔を合わせ、ひと時を過ごします。

●三島町には様々な方が、様々な想いを持って移住されています。
ぜひ、こちらもご覧ください。
https://okuaizumishimamachi.hatenablog.com

移住 case 2

安藤 香奈子さん(30代) 茨城県日立市出身。2019年度生活工芸アカデミーに参加後、現在はカスミソウ栽培の研修中。

夏はカスミソウ栽培、冬は編み組

ＴＶ番組で三島町の編み組細工に興味を持ち、ネットで調べたところ、編み組を学べる生活工芸アカデミー制度のことを知りました。

カリキュラムを通して三島町の様々な人と関わり合うことができたので、参加して本当によかったです。元来人見知りの私が一人で三島町へ来ていたのでは、こんなに多くの方と知り合うことはできなかったでしょう。アカデミー制度のおかげで、仕事も住まいもスムーズに決まったのだと思います。

アカデミー参加中、休みの日は県内を色々回ろうと考えていましたが、三島町には色々なことを知っている面白い人が多いので、町内にいたほうが楽しいとわかり、結局外へはほとんど出かけませんでした。また、三島町では何かを作りたいと思ったときに、その作り方を知っている人がいるということが印象的でした。昨年は町内事業者が開催する木工教室に通い、文机を作りました。

アカデミー終了後ももっと編み組を学びたいと思い、仕事について考えた結果、私自身もびっくりしていますが、カスミソウ農家になることとなりました。農業を女手一つでやっていけるのか不安がありましたが、亀好さんのお話を聞いているうちに、だんだんとカスミソウ栽培に興味が湧き、またカスミソウならば一人でもやっていけそうだと思い、この道を選びました。亀好さんは、カスミソウ以外にも養蜂や狩猟など多くのことを知っており、色々と勉強になります。来年から独り立ちできるよう研修中ですが、夏はカスミソウ栽培、冬は編み組という暮らしが理想です。

「勤まるか心配だったが、安藤さんだったら大丈夫」と研修先の角田亀好・光子夫妻に太鼓判を押される安藤さん

移住 case 3

髙枝 佳男さん(50代) 大阪府出身。2012年株式会社 toor 創業。パソコンのソフトウェアを開発する ITベンチャー企業を経営。

人と人とのつながりが導いた暮らし

地元の佐久間建設工業㈱が古民家再生プロジェクトにより改修した築１４０年程の古民家「清匠庵」

東京で１０数年生活する中で、都会での人との距離や過密状態の生活環境に疑問やストレスを感じていたところ、地元の地域活性化に取組む佐久間さん（三島町で建設業を経営）と出会い、三島町への移住を勧められました。取引先の方からも後押ししていただき、また私自身、漠然と田舎の方が新しい世界が拓けてくるのではないかとも思っていたので、移住することを決断し、古民家「清匠庵」に住まわせていただくことになりました。

ここは都会と比べてネットワークの帯域幅が広く安定しており、４Ｇ回線も繋がるのでＩＴビジネスにおける障害はほとんどありません。むしろ、自然の中に身を置くことで発想が緩やかになり、気持ちも穏やかになります。また移動には車が必要で、時間がかかることもありますが、ドライブをしながらゆっくりと考える時間をつくることができます。

田舎暮らしでは、家の周りの草刈りや雪片付けが欠かせません。危険を伴う大変な作業と思われがちですが、自分にとってはストレスの多い仕事から強制的に離れ、体を使って息抜きをする時間として活用しています。

ネット回線があればどこにいてもできる仕事ではありますが、地域の人の人情や温かさ、大自然に居心地の良さを感じ、今は三島町を離れる理由が見当たりません。これからも、人とのつながりを大切にしながら、地域の発展に貢献したいと考えています。

移住 case 4

地元の材を使って新居を建てられました。

橋本 光五郎さん・洋子さんご夫妻（60代） 2016年、定年退職を機に千葉県松戸市より移住。早戸地区在住。

第三の人生

かねてより、定年退職をしたら今までとは全く違う場所で、違う生活をしたいと思っていました。そこで５０歳の頃から移住地探しを始めて、色々なところを見てきましたが、最終的に子育て時代から通い慣れた奥会津、そして色々な方々との出会いの中で三島町へ移住することになりました。

住んでみると、三島町はほどよい距離の田舎だと感じています。町内には県立病院、車で１時間ほど走れば大型商業施設もあり、日常生活で困ることはありません。それでいて、美しい風景が広がり、野生動物が身近にいるなど自然が豊かです。

色々な人に教わり、耕耘機やチェーンソー、草刈機、除雪機、電動工具などの機械が使えるようになりました。自分の生活に必要なことは自分でする。何か「生活するための原風景」とも言えるものがここにはあると思います。もし移住しないでマンションでの生活を続けていたら、引きこもり老人になっていたかもしれませんが、ここでは毎日が新鮮で、充実しており、引きこもっている時間などありません。

「田舎暮らし＝スローライフと思われるかもしれませんが、実際は色々と忙しいですよ。」と笑いながら農作業をするお二人

定年退職した６０歳代は、ここではまだまだ若者。高齢化が進み地域の人口が減っているため、都会以上に草刈りをはじめ様々な地域活動に参加し、皆でやっていかなくては地域が維持できません。都会からの移住者は、そのことはきちんと理解して移住しなければいけないことかもしれませんね。移住したら、その地域の人たちが築いてきた生活に合わせて、そこの生活を楽しむことが大切だと思います。

地元の人紹介

三島町への移住を考えている方、空き家や生活についてなど聞きたいことがあれば、何でも聞いてください！！

NPO法人まちづくりみしま代表理事
佐久間 宗一さん

まちなみ景観づくりの一環として、７年前から小学校前の耕作放棄地で菜の花を栽培しています。

三島の人は生涯現役

佐久間さんは現在７０代ですが、まちづくり活動をはじめ、趣味のスキーや渓流釣り、登山、卓球、またお孫さんの世話と、毎日忙しく動き回っています。

建設会社を退職後、資格や様々な企画運営の経験を生かして、少しでも地域のために役立ちたいとの思いから、仲間２４人と『ＮＰＯ法人まちづくりみしま』を立ち上げました。地域の活性化や、町と協働で空き家対策、移住定住促進に取り組んでいます。

また、佐久間さんが代表の『みやした蕎麦と豆腐の会』では、宮下地区のおもてなしを目的に、観光協会で蕎麦の提供をしています（毎月隔週末）。

「蕎麦の花でいっぱいの景観づくり運動」にも取り組んでおり、遊休農地を活用して、蕎麦蒔き・蕎麦刈り・脱穀作業などを地元の方や移住者の方が一緒に行い、秋には収穫祭で親交を深めています。

暮らしの情報

町内環境

- 保育園、小学校、中学校各１ずつ
- 県立病院（内科、外科、心身医療、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科）
- コミュニティーバス
- 商店（食品、雑貨）、薬局あり
  ＊大型スーパー等は車で30分ほど

住まいの支援

- 空き家取得・改修補助金（上限150万円）
- 新築補助金（上限150万円）
- 町営住宅
- 空き家バンク
- 薪ストーブ設置補助金（上限15万円）

子育ての支援

- 18歳以下医療費無料
- 保育所無料
- 小中学校給食費無料

その他

- 起業支援補助金（上限100万円）
- 就職祝い金（5万円）
- 結婚祝い金（10万円）
- 出産祝い金（30万円）

※詳しくはこちらをご覧ください。http://www.town.mishima.fukushima.jp/chiiki_seisakuka/27066

小さな町で
豊かな暮らしを始めてみませんか？

三島町へお越しください

お車、高速バスでお越しの方

東京方面から(約4時間)

浦和 IC →(東北道)→ 郡山 JCT →(磐越道)→ 会津坂下IC →(国道252号)→ 三島町

新潟方面から(約2時間)

新潟中央 IC →(磐越道)→ 会津坂下IC →(国道252号)→ 三島町

高速バス(約6時間)

新宿 →(高速バス)→ 会津若松駅 →(只見線)→ 会津宮下駅 → 三島町

鉄道でお越しの方

東京方面から(約5時間)

東京駅 →(東北新幹線)→ 郡山駅 →(磐越西線)→ 会津若松駅 →(只見線)→ 会津宮下駅 → 三島町

東京方面から(約6時間)

浅草駅 →(東武線・野岩線・会津鉄道)→ 西若松駅 →(只見線)→ 会津宮下駅 → 三島町

新潟方面から(約6時間)

新潟駅 →(信越本線)→ 長岡駅 →(上越線)→ 小出駅 →(只見線)→ 会津宮下駅 → 三島町

移住に関するお問い合わせ

三島町役場　地域政策課　地方創生推進係
http://www.town.mishima.fukushima.jp/
〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
TEL 0241-48-5533　FAX 0241-48-5544
seisaku@town.mishima.fukushima.jp

---

the most beautiful villages in japan

三島町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

「日本で最も美しい村」連合とは、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動を支援しています。

三島町は、日本各地で失われつつある伝統が残る地域として、特に奥会津編み組細工を始めとした「ものづくり」、国指定重要無形民俗文化財「三島のサイノカミ」といった民俗行事、そして、日本一良質といわれる「会津桐」を守る町として評価され、平成２４年に「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。